

令和6年度 学校評価① 自己評価 職員用 集計

<教科等の学習指導>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等において、授業のユニバーサルデザインの視点に立ち、ねらいを明確に示すとともに振り返りの時間を確保する。またMINATOカリキュラムを活用と個に応じた指導の工夫・改善をし、基礎・基本の確実な定着を図る指導を行うとともに、発展的な学習を計画的・段階的に取り入れることができた。	2	12	0	0
課題点	a 支援学級であるため、個々の実態に合わせて教材を設定しており、生徒によっては授業のねらいが明確に伝わっていないケースも見られた。				
改善策	a ICT機器を活用し個別最適化を図る。				
解決策	各教科等において、授業のユニバーサルデザインの視点に立ち、各教室にある「ねらい」「ながれ」「振り返り」等のプレートを活用し、授業のねらいを明確にし、必ず振り返りを行う。またICTを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を計画的に取り入れた授業改善に取り組む。				
②	課題の発見と解決に向けて教科等横断的な視点から単元計画、単元配列表等の作成し、個別最適な学びと協働的な学びを計画的に取り入れ、指導と評価の一体化を図り、生徒の学習や諸活動への能動的な関わりを促進することができた。	1	11	2	0
課題点	a 個別最適な学びと協働的な学びの充実				
改善策	a 知識・技能の定着のうち、ICTの活用により補える部分は補い、協働的な学習や個別最適な学習の時間を捻出し、実践回数を増やす。				
解決策	校内研究において定期的な研究授業を設定し、全体としての取り組みの活性化を図る。				
③	タブレット端末やICT機器を活用した個別学習やグループ学習等、指導方法を工夫し資質・能力の向上を図ると共に理数教育の充実を図り、誰一人取り残すことない個別最適な学びと教師と生徒の力を最大限に伸ばすGIGAスクール構想の実現を目指すことができた。	4	7	3	0
課題点	a ICTを活用する重要性はわかりますが、環境が他の学校に比べて劣悪な部分があります。 b タブレットは毎時間のように使って、教育効果も上がっていると思いますが、稀に違うことをしている生徒がいるようです。クラスルームでは見られないようにする方法を生徒は知っているようで、対応に苦慮しています。 c ①グループ学習の方法が定着しておらず、決まった生徒が発言することが多くなってしまった。 ②スクールタクトの活用が宿題を出すだけになってしまった。個別最適な学びに結びつけていきたい。 d タブレットの使用が少ない。 e タブレットについて、学習に関する内容以外で使用する生徒がいる。 f ICTを使ったグループ学習で議論する場面を作ることができなかった。				
改善策	a 普通教室でも視聴覚教材を有効活用できるように、全ての教室に社会科室と同じようなプロジェクターとホワイトボードの環境を整備するよう港区に訴えてほしいです。 b クラスルームで何とか対応できないか調べてもらうと共に、机間巡視して注意するしかないと思います。 c ①司会者、発言者の定着をさせるために、台本を用意する。 ②スクールタクトの活用方法を他教科の授業から学ぶ。活用方法の例を、担当者から聞く。 d タブレットの活用を増やす。 e 学習に使用する以外の時間の扱い方について、全校で統一して指導を徹底する。 f 発問の工夫、話し合いをする時間を増やし、対話に慣れさせる。				
解決策	令和7年度重点事項として「ICTを活用した学びの充実」と「基礎学力・活用力の習得」とされていることからテーマとして掲げ、校内研修会で研究授業を行う場面を設定し、全校で研究を進めていく必要がある。ICT推進委員会において来年度のテーマについて提案。				

<評価>

	内容	A	B	C	D
①	単元や題材などの内容やまとまりを見通しながら評価の場面を工夫し、学習の課題や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上につなげることができた。(指導と評価の一体化)	1	12	1	0
課題点	範囲が広く、急ぎ進めなければならない課題もあり、様々な評価を付ける機会が限られてしまっている。				

改善策	履修範囲が広い中で、どのように評価をつけているのか区教研などで情報交換を行う。				
解決策	単元指導計画を作成し、どの場面で何を評価するのか計画的に行うこと。評価について生徒に説明し、学習意欲の向上につなげる。				
②	生徒の学習活動としての相互評価や自己評価なども工夫し、生徒の学習意欲の向上を図ることができたか。	1	11	2	0
課題点					
改善策					
解決策					
③	指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等多面的・多角的な評価を行うことができたか。	2	8	4	0
課題点	a 話しあいをする際に、スクールタクトを活用するが、他者参照の視点では使いにくい。				
	b 生徒の力に大きく差があり、レポート作成などをさせる段階には入れなかった。				
	c グループ活動や発表が少ない。				
	d 論述やレポート課題の回数が少ない。				
改善策	a 次年度のグーグルアプリをより積極的に活用していくことで改善されると感じます。				
	b スモールステップで学習の振り返りをまとめる活動をさせていく。				
	c 授業時間が少なく最低限のことをやるので精いっぱい状況だが、時間を調整し、発表をまず取り入れたい。				
	d 指導計画を見直し、評価のタイミングを増やす。				
解決策	個別最適な学びや協働的な学びに向けた校内研修において評価においても研修を深めていく。				

<道徳>

	内容	A	B	C	D
①	広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習に取り組むことができた。	4	9	1	0
課題点					
改善策					
解決策					
②	「考え議論する道徳」の実践を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て道徳性を養わせることができた。	3	9	2	0
課題点	a 授業の内容はしっかりと受け入れているものの、実生活の中では、他者理解ができていない場面が多く見られる。				
	b 考え議論する道徳の実施				
改善策	a 授業の中に、実生活の中でよくある場面を想定したシミュレーションやロールプレイなどを入れる。				
	b 話し合いに役割をもたし、活動を活発にする。				
解決策	道徳授業ではローテーションを行っているので道徳教育推進教師を中心に計画的に相互参観の時間を設定し、授業研究を実施していく。				

③	道徳(実施、各学年の指導、内容、地区公開講座等)について適切でした。	3	9	2	0
課題点	道徳地区公開講座、進路説明会が連日だった為、保護者の方が参観しづらかったと思う。				
改善策	来年度は日程の変更を検討する。				
解決策	教務で検討提案				
④	道徳全体計画・年間計画は適切でした。	4	8	2	0
課題点	a 自分の授業はしっかりできたと思います。道徳の授業の時間確保ができていないのが課題だと思います。				
	b 月曜の6時間目がカットされることが多いので、連続性をもって授業を展開できなかった。				
	c 2年生の1～2学期は、鎌倉校外学習、夏季学園、運動会、職場体験と行事が詰まっている。また、月曜日の休日が多く道徳の時間が潰されてしまうなど、時間数の確保が難しい。バランスが悪くて3学期は道徳の時間を、しっかりと確保できている。				
改善策	a インターン、ビジョンなどの使用を見直したらどうでしょうか。				
	b 月曜の1時間目を道徳の時間にしてもよいと感じます。				
	c 行事の精選をする。				
解決策	クエストエデュケーションの取り組みは総合的な学習の時間の教材として取り組んでいる。道徳の時間ではないことを理解する。行事の精選について具体的に生徒の実態から青山中学校では生徒に何が必要であり、年間を通して何を学ばせたいかをしっかりと検討する必要がある。年度末反省において各学年で全校の行事について検討する必要があり教務で計画を提案する。				
⑤	道徳の別業は適切であり活用できました。	2	8	4	0
課題点	教科との関連性を考えて行うことができなかった。(国際教育除く)				
改善策	題材選びのときに別業も参考にする。				
解決策	どうすれば活用できるか道徳担当から提案				

<特別活動>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等で育まれた資質・能力を実践的な集団活動を通して、総合的で汎用的な力に変え、実生活で活用できるようにすることができた。	5	8	1	0
課題点	活動を通しての学びを日常生活につなげる声かけが少ない。				
改善策	日常の場面での生徒の成長を見取り、声をかけ、生徒一人ひとりが成長を感じられるようにする。				
解決策	各学年で生徒の実態から年度当初に特別活動における目標を明確にし、生徒に働きかけ目標の達成状況を学期ごとに振り返り次の学期の取り組みに活かす。				
②	学校行事において、集団生活の意義を理解させ、集団の一員としての連帯感を高めるとともに、節度ある行動がとれる生徒を育成することができた。	5	8	1	0
課題点	通常学級の生徒と、支援学級の生徒との間に壁が存在し、学校行事の中で、一緒に活動できる機会が少ない。				
改善策	教員間で支援教育の方向性を定め、通常学級の生徒も支援学級の生徒を受け入れられる教育を行えるように連携する。				
改善策	評価項目①同様に取り組みを進める。特別支援学級との関わり合いに合同で行う場面ごとに位置づけを明確にして計画を進めていく。				
③	学級活動、生徒会活動、学校行事等を通じ生徒が自主的に活動する機会や体験活動を充実させ、自主性や自発性の発達を促すことができた。	6	8	0	0
課題点					
改善策					
解決策					
④	美術館と大学の支援による美術鑑賞授業で学年ごとに地域の美術館を訪問し、優れた作品に触れて感動したり、創造する喜びを感じたりする生徒の体験をとおして、豊かな心や思考力・表現力、言語能力の育成を図ることができた。	5	8	1	0
課題点					
改善策					
解決策					

<総合的な学習の時間>

	内容	A	B	C	D
①	ICT機器等の活用や多様な学習形態を取り入れ、教科等横断的な視点から各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、身近な課題や興味・関心に基づく探究活動により、自己を見つめ、自己の生き方に活かす態度を養うことができたか。	4	9	1	0
課題点					
改善策					

解決策					
②	環境や自然を課題とした問題の解決や探究活動を通して、課題発見・課題解決力を育成することができた。	3	11	0	0
課題点					
改善策					
解決策					
③	総合の全体計画・年間指導計画・各学年の指導・内容等については適切でしたか。	3	11	0	0
課題点					
改善策					
解決策					

<学校2020レガシー>

	内容	A	B	C	D
①	特別活動や総合的な学習の時間を中心に、学校における継続的な教育活動として学校2020レガシーに関する学習に取り組み、ボランティア・アマイド、障害者理解、豊かな国際感覚の育成に取り組み、多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる生徒の育成を図ることができた。	4	10	0	0
課題点	学校2020レガシーの時だけのものになっていると感じる。				
改善策	特別支援学級との活動を増やし、お互いに多様性を尊重する時間をふやす。				
解決策	学校レガシー2020だけの取り組みととらえるか、各教科や道徳等と関連付けて授業を行うかについて教科等横断的な視点をもって授業計画を立てていく必要がある。年間計画を立てる際、学校レガシー2020と関連を意識した計画を作成していく。 特別支援学級との連携については評価項目特別活動②と同様計画的に目的を味覚にして取り組んでいく。交流夕食なども計画的に実施し、振り返りを行い改善していく。				

<環境教育>

	内容	A	B	C	D
①	「青山中学校まるごとSDGs」を掲げ各教科、道徳、総合的な学習及び特別活動においてピオトーブを活用するなどSDGsに関連する学習を計画的に実施し、環境の問題を理解するとともに、持続可能な社会の創り手としての資質・能力の育成を図る。	5	9	0	0
課題点	a SDGsを自分事としてとらえている生徒が少ない。 b SDGsに特化しすぎている点				
改善策	a 年間を通してあらゆる授業の中にSDGsの観点を取り入れて指導する。 b 栄養士の先生に講話してもらうなど、食育など環境教育を幅広くとらえて、多様な人材を授業に活用しても良いと感じました。				
解決策	令和7年度も重点事業として環境教育があげられている。青山中学校として日常生活の中でどのように環境教育について取り組んでいくかを考えたとき、新たに取り組みを起こすのではなく現在取り組んでいる内容を教員がより教科横断的な視点をもって授業実践を行うかが大切ではないか。そのために年間指導計画・単元指導計画の中に環境教育や国際理解教育などを関連づけて授業を實踐し、振り返りを行うことで生徒が関連付けて学習できあつたのかを確認していく必要がある。				

<国際理解教育>

	内容	A	B	C	D
①	英語科国際的授業等とおして、我が国の伝統と文化を理解、尊重するとともに異文化理解を深め、国際人としての資質やコミュニケーション能力の育成を図り、豊かな国際社会で活躍する人材を育成することができ	2	12	0	0
課題点	支援学級の中では、英語での簡単なやりとりですらまだ難しい。				
改善策	英語の授業の中でコミュニケーションの練習をさせていく。				
解決策	特別支援学級における英語学習については課題も多いが言語におけるコミュニケーションのみにとらわれることなく国際理解教育を進めて行く必要がある。特別支援学級として生徒の実態から計画的に国際理解教育を進めていくために計画をしっかりと立てていく必要がある。				
	内容	A	B	C	D
②	国際理解教育推進部として取り組んだ内容は、生徒一人ひとりの国際理解への意識付けとなる取り組みとして有効であった。	2	12	0	0
課題点	SDGsについて、各教科や学年での取り組みは多くなされているが、より、何の取り組みなのか(国際理解教育、みなエコ等)明確にする必要				
改善策	各教室に、SDGsに関する共通した掲示物を掲示する。				
解決策	令和7年度も国際理解教育の充実があげられている。今年度のアカデミーの取り組みから有効であった内容と今後の課題をおさえ次年度の計画をたてて行く。国際理解教育担当より次年度の取り組みについて提案する。				

<特別支援教育>

	内容	A	B	C	D
①	特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育委員会を定期開催し、巡回指導教員、特別支援専門員、スクールカウンセラー、学習支援員、介助員と学級・学年等との連携を密にし、個々の能力や特性を伸ばすことができるよう特別支援教育の充実を図ることができた。	8	5	1	0
課題点	保護者の思いが先走ってしまうケースがあり、生徒の実態に合わない提案をされることもある。				
改善策	生徒を軸にした指導・支援を行うことを徹底して説明し、保護者にも納得してもらったうえで教育を推し進める。				

解決策	個別ケースについてSCやSSWとも連携し最適解を求めて対応していく。				
②	個に応じた指導を徹底し個々の能力の向上を図るとともに、友達の良さを認めるなど温かい人間関係を構築することができた。	5	9	0	0
課題点					
改善策					
解決策					

<言語能力の育成>

	内容	A	B	C	D
①	各教科等で話し合い活動や議論する活動、レポート作成等、学年の発達段階に応じた言語活動の充実を図ることができた。	4	9	1	0
課題点					
改善策					
解決策					
②	毎朝10分間の朝読書を含む読書活動の推進を図り、本を読む習慣を身に付けさせるとともに読書の楽しさを味わわせることができた。	4	6	4	0
課題点	a 学級文庫が少ない。 b 朝読書ができない生徒がいる				
改善策	a 学級文庫の数を増やすために、かごのような物を用意してスペースを確保しても良いと感じます。 b 読みやすい本を提供する				
解決策	朝読書の徹底、図書担当、図書司書とも連携し、学級文庫の充実や読書活動を推進していく。				
③	読書への関心・意欲を高めるため学校司書と連携し、生徒の発達段階や興味・関心に合わせた本の紹介、貸出を行うことができたか。	0	0	0	0
課題点	a 図書室の貸し出し数がなかなか増えない。 b 本を読む習慣が身につけていない。好きな本を聞いても答えられないと生徒が多い。朝読書は、アンケートなどで潰されてしまうことが多い。 c 生徒に読書の習慣が定着せず、小説を読む生徒が少ない。				
改善策	a イベント等考えます。 b 読書カードを作成したり、スタンプラリーなどを企画する。学芸発表会の企画にして、ビブリオバトルを行う。司書さんとの日頃からの連携 c 図書委員が主催する図書室でのイベントを押し出し、本を選んで借りて読む習慣を身につけさせる。				
解決策					

<情報活用能力>

	内容	A	B	C	D
①	タブレット端末等を用いて得た情報を取捨選択し、自分のものとして生かしたり、得た情報を加工したりして他者に向けて発信するなど、プログラミング的思考力を育成するとともに、情報モラルについても理解し、情報活用能力を育てる。	4	8	2	0
課題点	a タブレットを活用する場面がそこまで多くない。 b 休み時間中は学習に関係のない使い方をしている生徒がいる。				
改善策	a 授業の振り返り等は全教科フォームで行うなどの習慣をつければ、iPadの使用頻度が増え、生徒のタイピング技術も目々と向上すると思います。 b タブレットのルールや意義を繰り返し指導する。				
解決策	タブレットの使い方については理解し指導をおこなう。全教科の先生方が足並みをそろえた指導の徹底をする。				